

# 生息域外保全事業の進捗状況について

東京都

# 1. 飼育経過

飼育段階	目的	飼育ケージ	日付時間	餌（飼育ケージ毎）	観察記録
初期飼育 (母島)	餌付けの可否 (48時間以内)	個別 (竹かご+白布)	9/23 1日	・粒餌(5割)、麻の実(3割)、 カナリーシード(2割) ・すり餌+砂糖水+コオロギ	・最短3時間、最長19時間で粒餌採食 ・最短2時間、最長3時間で飲水
継続飼育 (母島)	必要採食量確認 すり餌の餌付け	個別 (竹かご+白布)	9/24 1日	・粒餌(5割)、麻の実(3割)、 カナリーシード(2割) ・すり餌+砂糖水+コオロギ	・粒餌の剥き殻が多数あり、特に麻の実 の嗜好性が高い ・飲水時におけるすり餌の採食を確認
父島搬送 (ははじま丸)	搬送リスクの評価	個別 (竹かご+白布+段ボール)	9/25 2時間(船上)	・なし	・鳴き声、羽ばたき音もなく、 <u>平靜が保たれていた</u>
継続飼育 (父島)	目隠なし順化 餌種類と量確認	個別 (竹かご+白布(徐々に減少))	9/26~29 4日	・粒餌(8割)、麻の実(1割)、 カナリーシード(1割) ・すり餌+水+コオロギ	・完全に白布がなくても <u>落ち着いている</u> ・粒餌の総量を徐々に減らした ・すり餌の採食を保たれた
継続飼育 (父島)	検疫待機	個別 (竹かご)	9/30~10/24 25日	・粒餌他2g(粒餌、麻の実、 カナリーシード) ・すり餌+水	・粒餌他2gは完食、すり餌の採食も確認 ・ <u>さえずりをほぼ毎日確認</u> ・人の接近時での飲水、採食確認
継続飼育 (父島)	ペア飼育試行	ペア同室 (金カゴ)	10/25~10/28 4日	・粒餌他4g(粒餌、麻の実、 カナリーシード) ・すり餌 ・水	・追回しなど、 <u>ペア間のトラブルなし</u> ・新規の餌容器もすぐに順応し、採食量も 変化なし
継続飼育 (父島)	繁殖環境 (大ケージ) 順化	ペア同室 (大ケージ)	10/29~ 30日目~	・粒餌他4g(粒餌、麻の実、 カナリーシード)徐々に麻の実、 カナリーシードの割合を減少 ・すり餌 ・水	・追回しなど、ペア間のトラブルなし ・粒餌他4gは完食、すり餌の採食も確認 ・ <u>人口巣やモクマオウでの遊び行動確認</u>



母島施設



ははじま丸



父島施設

## 2. 検疫結果

10/7 国立研究開発法人国立環境研究所にて実施

**すべて陰性**

対象

6921A オガサワラカワラヒワ(1)

6922A オガサワラカワラヒワ(2)

6923A オガサワラカワラヒワ(3)

6924A オガサワラカワラヒワ(4)

6925A オガサワラカワラヒワ(5)

赤粹飼育個体  
(4)は放鳥個体

検査内容

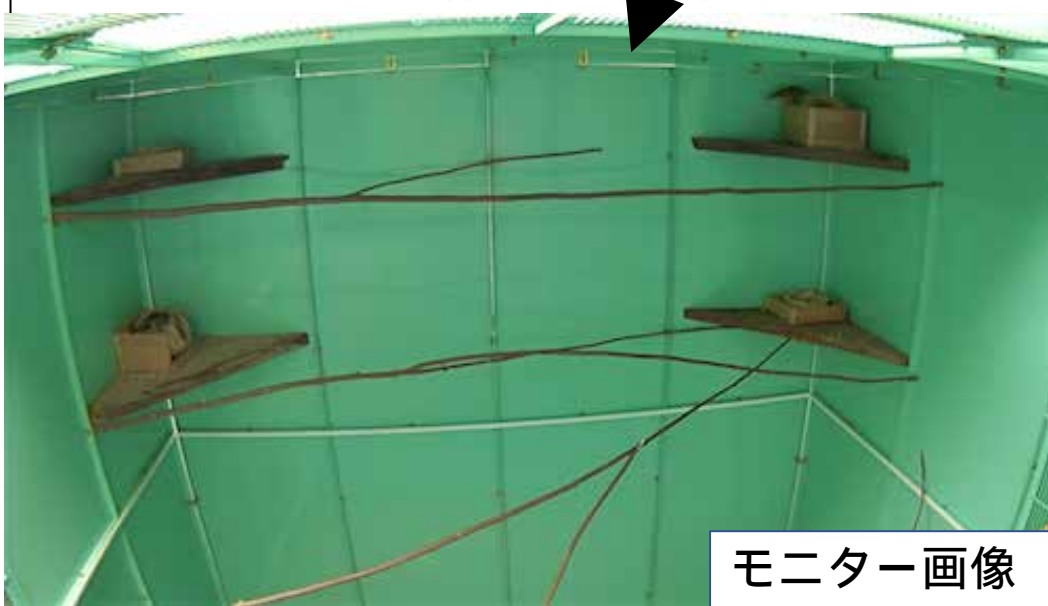
病原体/疾患名	検査材料	方法
鳥インフルエンザ	糞便 RNA	LAMP 法
ウエストナイルウイルス感染症	糞便 RNA	LAMP 法
オウム病	糞便 DNA	リアルタイム PCR 法
Q 熱	糞便 DNA	リアルタイム PCR 法
サルモネラ	糞便	培養法
ニューカッスル病ウイルス	糞便 RNA	PCR 法

結果

病原体/疾患名	6921A	6922A	6923A	6924A	6925A
鳥インフルエンザ	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
ウエストナイルウイルス感染症	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
オウム病	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
Q 熱	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
サルモネラ	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
ニューカッスル病ウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

別途、恩賜上野動物園実施の寄生虫検査で放鳥個体(4)の糞検体からダニ検出飼育個体にも付着していることが懸念されたため、10/6に同動物園職員により、ダニ駆除剤(ボルボパウダー)散布処置

### 3. 飼育施設



モニター画像

検疫結果が陰性だったため、  
10/25からペア飼育開始

# 4. 個体情報

羽毛による遺伝解析を（公財）山階鳥類研究所にて実施中

1  
号室



飼育No.1  
捕獲時は幼鳥

2121/09/23  
6:50母島捕獲



右脚: 青  
左脚: 赤 橙

BW  
10/4 : 18.44g  
10/25 : 18.58g



飼育No.3  
捕獲時は成鳥

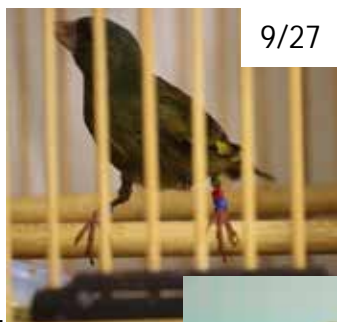
2121/09/23  
14:35母島捕獲



右脚: 青  
左脚: 赤 紫

BW  
10/4 : 16.20g  
10/25 : 18.51g

2  
号室



飼育No.2  
捕獲時は幼鳥

2121/09/23  
6:50母島捕獲



右脚: 青  
左脚: 赤 青

BW  
10/4 : 16.93g  
10/25 : 17.46g



飼育No.4  
捕獲時は幼鳥

2121/09/23  
14:37母島捕獲

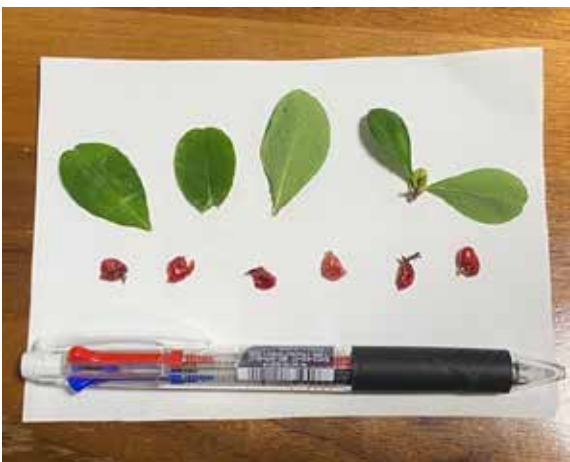


右脚: 青  
左脚: 赤 水色

BW  
10/4 : 15.61g  
10/25 : 16.91g

## 5. 採食実験と今後の飼育

ムニンアオガンピの採食  
葉にも噛り跡あり



ジュズサンゴの採食



モクマオウの遊び行動



### 繁殖に向けた今後の飼育

一般的には栄養状態が低下すると種を存続させるために繁殖機能が活発になるため、餌の減量を行う。

令和4年1月初旬～

ジュズサンゴ等の採食樹種の確認など、臨時の餌の使用の中止

令和4年1月中旬～

麻の実、カナリーシードの排除に加え、**粒餌の総量4gの減量**を行う。最低限の栄養維持のため、すり餌は現状のまま

令和4年3月上旬

繁殖期直前に恩賜上野動物園職員来島予定

# 6. 生息域外の普及啓発

## ○島内広報

小笠原自然情報センターだより  
12月発行第31号にて島内全戸配布  
生息域外保全事業の進捗状況報告

## ○飼育映像の公開

非公開で飼育している個体を  
令和4年度、モニター等機器  
設置工事を行い、小笠原ビジ  
ターセンターで映像公開予定

## ○飼育個体の命名

映像公開を控える中、地域団体「オガヒワの会」が、飼育個体に命名  
予定。命名に当たっては、島内小学校、講演会、小笠原を訪れる観光客  
などに広報し、募集予定。

各種広報に当たっては、飼育個体への影響に配慮し、飼育場所は非公開

### オガサワラカワラヒワの生息域外保全

(環境省・東京都)

- 絶滅が危惧されているオガサワラカワラヒワ（通称：オガヒワ）について、地域住民、専門家、民間団体や関係行政機関などが保全対策に取り組んでおり、9月30日には有識者による「第一回オガサワラカワラヒワ保護増殖事業検討会」が開催されました。
- 環境省は、向島ドブネズミ対策について、小笠原村と協同し、駆除範囲の拡大、ハイトステーション設置基数の増量など対策を強化する予定です。
- 東京都は、種の保存法に基づき環境大臣の確認を受けて、生息域内保全の補完として、生息域外保全に取り組んでいます。9月下旬には、母島島民から寄せられた飛来目撃情報などを基に母島本島で捕獲し、飼育繁殖施設のある父島に移送、雄雌2ペア計4羽の飼育を開始しています。繁殖地の対策と連携して生息域外での増殖を実現し、生息域内の個体群の増強に貢献していきます。

目撃情報は環境省母鳥事務室（3-2577）までお寄せください！



若鳥♀

若鳥♂

成鳥♂

若鳥♀

捕獲状況



小笠原ビジターセンター



映像公開イメージ

# 7. 生息域外保全の方向性

## 12月6日オガサワラカワラヒワ生息域外保全に関する検討打合せ

開催者：東京都、オガサワラカワラヒワWS域外WG

開催日：令和3年12月6日 オンライン会議

概要：保護増殖実施計画の作成にあたり、生息域外保全事業の今後展開について、有識者6名、関係行政機関（環境省、林野庁、東京都、小笠原村）や民間事業者が集まり、議論。有識者は、令和2年秋のオガサワラカワラヒワ保全戦略ワークショップの域外及び域内保全の参加者（生態学、保全生物学、動物園、解析モデルの専門家）が出席した。

### ■ 主な議論事項

小笠原での域外保全は、緊急避難による「脅威（ネズミとネコ）」からの避難であり、脅威が回避され次第、生息域内へ補強することが望ましい。

- 生息域内個体群への補強、回復を考えるとファウンダーを5ペア程度確保し、安定した域外個体群形成が必要。（ただし、生息域内の繁殖状況が良好な場合に捕獲実施）

生息域内個体群への補強を考えた場合には、繁殖地に近い母島で飼育繁殖施設が必要

### ■ 今後の検討事項

直近、飼育下個体が繁殖成功した場合の対応

- 飼育繁殖から野生復帰までの手順等の整理及び計画策定